

# 不育症スクリーニング検査

不育症とは、2回以上の流産、死産、あるいは早期新生児死亡（生後1週間以内の赤ちゃんの死亡）がある場合を不育症と定義します。検査をすると約半数の方に下のグラフのような異常が見つかります。

また、不育症の定義には当てはまりませんが検査をしてもよいとされているのは、繰り返す化学流産（妊娠反応が陽性になるが胎嚢が確認されまじまま流産になること）、また染色体異常や形態異常のない妊娠10週以降の流・死産や重症妊娠高血圧症候群による子宮内胎児発育遅延症例です。

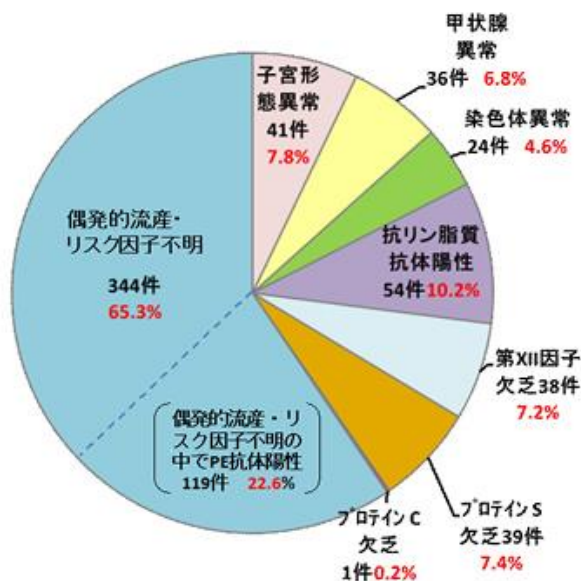
当院では以下のスクリーニング検査を行なっています。

- 1.子宮形態検査 : 子宮卵管造影、子宮鏡検査
- 2.内分泌検査 : 甲状腺機能検査 (fT4,TSH)  
糖尿病検査 (HbA1c,血糖値)
- 3.夫婦染色体検査 : 染色体検査
- 4.抗リン脂質抗体検査 : 抗CL $\beta$ 2GPI複合体抗体、抗CLIgG抗体  
ループスアンチコアグラント  
(自費) 抗CLIgM抗体、抗PE抗体IgG,IgM
- 5.血栓性素因検査 : 第XII因子、ProteinS、ProteinC、APTT
- 6.自己抗体検査 : 抗核抗体、抗DNA抗体
- 7.免疫学的検査 : (自費) NK細胞活性、Th1/Th2比

図1.不育症のリスク因子別頻度

## 不育症のリスク因子

1. 子宮形態異常
2. 甲状腺異常
3. 染色体異常
4. 抗リン脂質抗体陽性
5. 第XII因子欠乏
6. プロテインS欠乏
7. プロテインC欠乏
8. 偶発的流産・リスク因子不明



n=527 (年齢34.3±4.8歳、既往流産回数2.8±1.4回、重複有43件)